

114
A 4752

補助金下附額



中尉一行を極振振事
新し補助金の下附を従

古き昔は日暮に極生あり差

出せし陳情書にふり日暮

明白に有之今改を申出先

途に無之復得共其以

同様極事其小國庫補

助建議案は衆議院

に提出され政堂に政派を

為せ其満場一致と以

て通過致るに於きては

國論の帰する所も是に

窺ふに足るべく此際是非

共金五万三千円の補助金

下附あらんと切望を致す

殊に同様極事其小國庫の係

新西世間出るは其の人

共金五万三千圓の補助を
下附あらんと切望を致す
殊に目撃接や母の儀候
新西世園出を乞ふに人
隊の志あるを天候と我
に猛撃あるを寒を氣氷
雪と闘ひ進航致す
も一行皆無事にて南
緯七十回度之地に定んまて
到着しを久、同隊が天候
と氷雪との爲め妨げら
れ陸上隊と上陸せ
しありありしは半道に悔
なれども、~~同隊が南極園~~
内に入つて進するを五日、
クルマン島の附近まで到
達して帰還せしは、是れ
一再は雪の際充分に南極園
に直航して目的の隊行
に從事し得るを証明せし
ものと存候、同隊は予

再此等の際充分に南極圏
轉^陸て直航して目的地の航行
に從事し得ることを証明せし
ものと存候。同隊は今
やシドニーにありて能く
甚るる此期を以て
平入の準備を整へて
加し出立を以て又完全
なる設備と爲して
本年秋半子再び同地
より極地に向つて進航
せんことを以て其
企畫には力量を以て
其の事々存候と
以て本年は其準備は
洞窟あり此際成る
べく至るに身世七歳
各各通の補給を
額^{全部}に下
附ありし事と爲す

本年秋手子再の因次
より極北に向つて進航
せんと企て及ぬと申す其
企畫には力量を不
たの事少なるを云ふ事
治て希中へ此事陸軍
洞窟あり此際成る
又之を多し茅廿七歳
名通西の補中令
額取^{全部}下
附ありし事と云ふ
致候也

尚ほ存存立存書長
佐野大隈在信